

PTO意識調査に会員の皆さまから貴重なご意見をたくさんいただき、ありがとうございました。寄せられたコメントを抜粋して紹介させていただきます。

- ① サポーターは足りていますか。人手不足なら、行事の取りやめも検討すべきでは。
- ② 全ての行事において保護者の参加を強制で募るべき。せめて、行事係は復活すべきでは。
- ③ PTA活動の時の方が、何をやっているのか分かりやすかった。
- ④ 委員会制を廃止したために、PTO活動が特定の人たちやグループのものと認識されてしまい、関わる人が減り、保護者の参加の機会を奪っている。知り合いのいない人にとっては、PTO活動に飛び込むエネルギーがいる。新しい人を取り込むアイデアが必要では。
- ⑤ 全ての方が、1年間に1人、1ジョブ、できることが理想。ボランティア制になって、全くPTO活動に関わらなくなった方がたくさんいる。やるべきです、子どものため、自分のために！
- ⑥ 転校してきたが、強制的な委員会制ではなく、ボランティア制でPTO活動を回せるシステムが素晴らしい。ぜひ、続けて欲しい。
- ⑦ PTO活動に関わることで、子どもにとって地域とのつながりができた。ボランティアという言葉よりも前に「手伝うこと」が自然にできるようになった。
- ⑧ 今年は特に、たくさんの先生方がPTO活動に参加してくださったと思う。担任以外の先生を知ることができる機会が多く、学校全体の雰囲気を知ることができ、安心につながった。

上記のご意見について、ボランティアセンター（以下・ボラセン）から回答させていただきます。

ご意見、その1

サポーターは足りていますか？人手不足なら行事の取りやめも検討すべきでは。

答え⇒ アンケートの設問4を見ると、ボランティアに参加している人の割合は約6割。多くの方に参加していただいているように見えますが、6割に達するまでに、追加で募集をかけたリ、ボラセンスタッフの個人的な伝でお願いするなど、**最初から6割の方にご協力いただいたわけ**

はありません。

サポーター登録をしていただいても、各イベント・活動の前になると「用事ができた」「忘れていた」などの理由で欠席されるケースも多く、その穴を埋めるためにボラセンのスタッフがカバーすることもありました。ボラセンでは来年度から、登録いただいた方お一人おひとりに手紙を出し、登録いただいた行事の日時などを早めに伝えるよう努めていきます。

皆様にはできるだけ登録したイベントの日は空けていただき、ご協力いただければと思います。

「人手不足なら行事を取りやめては」というご意見ですが、PTO活動の大半がガーデンパーティーや連合運動会、盆踊りの手伝いといった校外活動で、いずれも大田区立小学校は参加必須のイベントであったり、地域との連携を保つためには欠かせない行事及び活動です。PTOの判断で実施をとりやめることは出来ません。

ご意見、その2

全ての行事において保護者の参加を強制で募るべき。せめて行事係は復活すべき。

答え⇒ 子どもが在籍している6年間に最低1回は委員会活動をするというのが、2年前（平成25年度）までの委員会制度でした。しかし、フルタイムで働いている人、出産したばかりの人、親の介護をしている人などさまざまな事情を抱える場合でも強制的に委員をやらなければならず、委員決めをする1学期の保護者会では委員が決まらずに沈黙が続き、保護者会を欠席する人も少なくはありませんでした。

PTOとしてやらなければならない行事・活動はたくさんあります。しかし、強制でサポーターを募れば、かつて委員決めをした時のような押し付け合いや、あの`沈黙`をまた経験しなければなりません。強制によって辛い思い、大変な経験をした方々の声が多かったからこそ、多数決でボランティア制へと改革したのです。

行事係の復活については、先に配布したアンケート結果の中でも回答していますが、ボラセンで何度も検討を重ね、「ボランティアをするきっかけづくり」という立場から共感する意見も上がりました。しかし、全員が必ず年に1度参加しなければならない行事係は強制になり、ボランティア制に反するという事で断念しました。可能な限り自主的に行動する人の気持ちを大切にしながら、地域との絆もより良いものにしていきたいと考えています。

ご意見、その3

PTA時代の方が、何をやっているのか分かりやすかった。

答え⇒ PTA時代は強制的に委員を割り当てられていたので、委員や役員経験者が多く、会員間で仕事内容の情報共有ができていました。委員会がなくなった今、気軽に尋ねる人が身近にいないという

ことも理由の一つではないかと思えます。

ボランティア制になって2年目。これからボランティア制による経験者が年々増え、サポーター同士で情報共有ができるようになれば、活動内容も分かりやすくなると考えています。また、ボラセンのスタッフが来期は25人になる予定です。分からないことは、ボラセンスタッフに聞いていただくか、メールでの質問にもお答えしています。また、**活動内容の手順を示すマニュアル作りも進め、初めての人でも分かりやすく活動ができるような仕組みを整えていきたい**と思います。

ご意見、その4

委員会制を廃止したために、PTO活動が特定の人たちやグループのものと認識されてしまい、関わる人が減り、保護者の参加の機会を奪っている。新しい人を取り込むアイデアが必要では。

答え⇒ 初めの一步を踏み出すきっかけづくりについては、ボラセンでも、いつも頭を悩ませるところです。ただ、どのイベント・活動も、ホームページから登録でき、いつでもどなたでも参加できるシステムは整えています。

「PTO活動は誰のためのものか」の問いに、アンケートでは、「学校にかかわる全ての人」と答えたのが最多の304人（35%）、次いで「子どものため」が263人（31%）でした。

子どもの安全を見守るパトロールや、どんど焼きなどの地域行事、先生や保護者らが講師となる夏の夢学校など、これらPTO活動に協力する人がいなかったら、子どもたちを取り巻く環境はどうなるでしょうか。**子どものため、学校のため、地域のため、自分のために`初めの一步`を踏み出してもらえたら**と思います。

親の思いは子どもに伝わり、親の行動は地域を変えます。一人が不安なら、お友達を誘って、ご夫婦で、週末イベントなら子どもと一緒に参加できるボランティアもあります。ボラセンも、気軽に参加できるボランティアの紹介や、グループ登録など`初めの一步`の支援をしていきます。

また、新年度からは、具体的な行事に登録はできない（したくない）けれど、人手不足の行事があれば「ピンポイントで手伝うよ」という方におすすめの「フリーサポーター」の登録も始めますので、ご検討いただければと思います

ご意見、その5

全ての方が、1年間に1人、1ジョブ、できることが理想。

答え⇒ おっしゃる通りだと思います。1人が1年に1回、サポーターとして参加するだけで、人手は足りることになります。

1人1人の支えあう気持ちが、義務や強制感のないボランティア制PTOの継続につながります。**皆様のご協力をお待ちしています。**

ご意見、6、7、8

答え⇒ ご意見、ありがとうございました。嶺町小の子どもと大人が笑顔になるようなPT
O活動を続けていきたいと思ひます。今後ひ皆さまのご理解・ご協力をお願い致しひます。